

3

確認問題

伝記・脚本

- 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

参考用

/

SAMPLE

● 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

参考用

/

- (1) 線① 「それじゃ、今日からここで勉強しましょう」とあります、
スラムの路地で始められた授業のことを表したことばを、本文中から四字
- (注) シスター＝修道院で修行をする女性の僧。
- （真鍋和子「マザー・テレサ」より）

で書きぬいて答えなさい。

□ (2) 線② 「孤児の家」はどんな施設ですか。それを次のようにまとめた場合の□に入る最もふさわしいことばを、本文中から三十字（も字数に數えます）でさがし、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

□ (3) □ を育てる施設。)

□ (3) 線③ 「死を待つ人の家」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。
□ ① マザー・テレサが、「死を待つ人の家」をつくったのはなぜですか。
次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 医者はまだ命がある人のことを見すてないということを知ったから。
イ インドには道ばたで死んでいる人が大勢いるということを知ったから。
ウ 死にかかった人に親切にすると喜んでもらえるということを知った
から。

エ 死にかかった人はなかなか病院に引き取ってもらえないということ
を知ったから。

□

□ (2) 「死を待つ人の家」は、どんなことをする施設ですか。「～施設」とい
う形で、書いて答えなさい。

施設。

練成問題

- 次の脚本（狂言）を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

〈狂言「しびり」（現代語訳・谷川俊太郎）より〉

（注）
堺＝現在の大坂府堺市。

しびれがきれ（る）＝足がしびれる。古くは「しびり」ともいい、

この狂言の題名になっている。

年季（がはいる）＝長年のあいだ引き続いくせになる。

□(1) — 線①「いいつけましょう」とあります、主人は太郎冠者にどうするふことをいつけたのですか。「と」という形で、十五字以内(へや)も字数に數えます)で書いて答えなさい。

□(2) — 線②「かしこまりました」とほぼ同じ内容を表すことばを、本文中から書きぬいて答えなさい。

こ
と
。

□(3) — 線③「(主人は奥にさがる。正面をむいてひとりごと)」について、次のそれぞれの問い合わせなさい。

□(1) 「(主人は奥にさがる。正面をむいてひとりごと)」などのように、脚本で役者の動作を指示した注意書きのことを、ト書きといいます。本文中の※に入るト書きとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ト腹をかかえて イ 正面をむいてひとりごと
 ウ トしゃがみこんで エ 次郎冠者を呼んで

□(2) 脚本で、ト書き以外の、登場人物のしゃべることばを何といいますか。ひらがな三字で書いて答えなさい。

--

--

□(4) — 線④「いや、太郎冠者がなにやらわめいている」と言つたときの主人の思いとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 何か言い足りないことでもあるのか。
 イ まだ堺へ出かけていないのか。
 ウ そんな仮病を使つてもだまされるものか。
 エ それほど堺へ行くのがいやなのか。

□(5) 本文の内容に合つているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主人は、使用人の不調をすぐに治し、そのうえで改めて用事をいいつけた。

イ 使用人は、うそをついて、どうにかして主人のいつけから逃れようとした。

ウ 主人は、使用者の言葉を信じこみ、仕事をたのむのをやめて、別の使人にたのむことにした。

エ 使用人たちとは、どちらが主人のたのみを引き受けるかで争い、たがいに押しつけ合つた。

--

--